



Salvator Mundi (救世主)

「ナイチンゲール、クリミア戦争、トルストイ」 (1820-1910), (1854-1856), (1828-1910)

名誉院長 西田 敬

ナイチンゲール、クリミア戦争、トルストイと列挙すれば、何の三題噺だっけ？と訝る向きも多かろうが、紛う方なく、医療不信に纏わる話。クリミア戦争に参集した兵士は、フランス軍が30万人で、戦死者は1万240人。戦傷死が略同数の1万人。ロシア軍の損害は更に甚だしく、戦死者が3万人、傷病者は60万人にも達した。宣為る哉、ちと考えれば納得する。細菌学の泰斗、Pasteurの乳酸発酵の最初の論文でさえ1858年。クリミア戦争の時代に碌な抗菌療法が在らう筈がない。

傷病には出血、丹毒、褥瘡、壊疽、敗血症に病院脱疽が並ぶ。手術死亡も夥しく、大腿骨骨

折の為の大腿骨切除術の死亡率は92%に近く、脛骨切断術でも71%に及んだ。この眼も眩むほど高い手術死亡率だが、伝染病の猛威と比較すれば埒もない。月と鼈どころか月と蚯蚓ぐらいの差異が歴然。コレラの猛威を皮切りに発疹チフス、腸チフス、壊血病の脅威にも晒された。軍医どのから一兵卒まで容赦なく感染の絨毯爆撃に曝された。遺体を埋葬す可く塹壕を掘らされていた兵卒が、力尽きて倒れ込み、其の儘埋葬されてしまう事態さえも縷々生じた。確たる戦闘も無き儘に、遂に救世主は現れなかったの乎、戦場には累々たる屍が晒された。

この医学の無力さ加減、クリミアの白衣の天使、Nightingaleは傷病者のtriage以外に一体何を為し得たろう歟？斯かる為体を具に目の当りにして居たのが、徴用兵の一員、RussiaのTolstoy。

御蔭で、文豪はすっかり医療不信に陥ってしまった。晩年、病室に彼を見舞った医師団に御足労を勞った後で、独り言を呟いた。「ったく、医学という学問は何も解っていない分野だからなあ！」

参考文献：Metchnikoff E: Trois Fondateurs De La Medicine Moderne PASTEUR-LISTER-KOCH. 1933

